

持続可能なまちづくりに向けて連携を推進

エス・ディー・グループ
東北SDGs 未来都市サミット・シンポジウム

左から岩手県陸前高田市の戸羽太市長、宮城県東松島市の渥美蔵市長、門脇市長、山形県飯豊町の後藤幸平町長、福島県郡山市の古崎賢介副市長。



1月16日、国連で採択された17の持続可能な開発目標（SDGs）を積極的に推進する東北5都市による「東北SDGs未来都市サミット・シンポジウム」が角館交流センターで開催されました。

同サミットは、内閣府のSDGs未来都市に選定されている仙北市、宮城県東松島市、山形県飯豊町により平成30年10月に発足、今年度新たに選定された岩手県陸前高田市、福島県郡山

市を加え、5都市により行われました。

シンポジウム前に行われたサミットでは、5都市の首長らがそれぞれの取り組みの現状などを報告。その後、SDGsによる連携を確認し、共同宣言を採択しました。また、福島県郡山市の提案により近年の異常気象による災害を懸念し、地球温暖化防止に向けて連携して取り組む「気候非常事態宣言」（下記参照）を採択しました。

シンポジウムでは、日本青年会議所少年少女国連大使の久米川華穂さん（大仙市立平和中2年）がスイスやスウェーデンを訪れてふれた最先端のSDGsについて講演しました。また、5都市の首長によるパネルディスカッションが行われ、持続可能なまちづくりに向けてそれぞれが進めている取り組みについて意見を交わしました。



パネルディスカッションでは、それぞれの取り組みを紹介。

エス・ディー・グループ
持続可能な開発目標（SDGs）



2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲット、244の指標から構成されており、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

- 気候非常事態宣言
- ①ごみの排出抑制、再利用、再資源化、発生回避の徹底
 - ②省エネルギー推進と併せた再生可能エネルギーの利用促進
 - ③人や社会・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）の普及
 - ④地球温暖化防止に資する取り組みの推進



自らの体験をもとに講演を行う少年少女国連大使の久米川さん。



6年生は味わって食べていました。



美味しいですか？の問いに、4年生のみんなは「美味しい〜!!」と答えてくれました。



佐竹北家の料理

『御狩場焼』

を味わう

1月24日、市内の小中学校の給食で、佐竹北家ゆかりの料理『御狩場焼』が提供され、子どもたちは地元の名物料理を美味しくいただきました。

これは、1月24日から30日までの「全国学校給食週間」にあわせて提供されたもので、今年で4年目になります。

御狩場焼は、鶏肉に山椒みそをつけて焼いた料理で、江戸時代に佐竹北家の殿様が狩猟の際に食べたといわれています。

取材に訪れた西明寺小学校では、御狩場焼を食べた児童たちが満面の笑みを浮かべながら美味しそうに味わっていました。



綱の結び方を習得しようと熱心に説明を聞く参加者。



雪下ろし作業中だけでなく、はしごの上り下りも注意が必要です。

安全な作業を心がけて

1月20日、屋根の雪下ろし作業時の転倒防止をしようと雪下ろし講習会が開催され、市民や事業所などから約80人が参加しました。

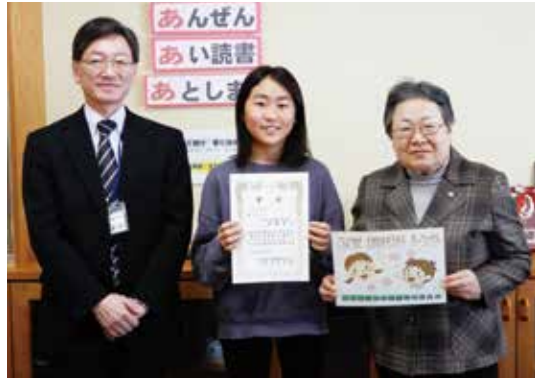
講習会の前半は、神代就業改善センターで大曲労働基準監督署から除排雪の事故防止対策、仙北警察署から雪害事故の発生状況、秋田県仙北地域振興局から雪下ろし安全対策用具の貸し出しについてそれぞれ説明がありました。

雪下ろし講習会

後半は、市役所神代出張所の車庫に場所を移し、角館消防署管内の職員による実技指導が行われました。

実技指導では綱の結び方のほか、はしごのかけ方や上り下りの指導もあり、参加者は習得しようと熱心に説明を聞いていました。

昨年度県内では、雪害事故が95件発生しています。雪不足の今冬ですが、降雪時に作業をする際は事故のないよう注意して行いましょう。



右から仙北地区少年保護育成委員会の荒木和子会長、小学校の部で優秀賞に輝いた角館小学校の倉橋華月さん（6年）、同校の浦山校長。

小学校の部

優秀賞

◆ 倉橋華月（角館小学校 6年）
こんにちは えがおをそえたら パーフェクト

優良賞

◆ 田口聖来（中川小学校 4年）
あいさつは みんなをえがおに するまほう
◆ 木元佑（白岩小学校 5年）
「だめだよ」と 自分で言おう 負けないで
◆ 高田浩太郎（生保内小学校 6年）
SNS あやしい話に 乗っちゃダメ
◆ 佐藤ひかり（西明寺小学校 6年）
気がついて 心の信号 点滅中
◆ 門脇みなみ（桧木内小学校 6年）
自分のね 情報まもう 未来へと

非行防止・健全育成標語 入賞作品をご紹介します

中学校の部

優秀賞

◆ 櫻田玲愛（西明寺中学校 3年）
ねえ聞いて スマホじゃなくて 私の話

優良賞

◆ 浅利琉斗（桧木内中学校 2年）
目を見張り 危険なサイトは ノーログイン
◆ 元村海星（西明寺中学校 1年）
まあいっか 1回だけでも ゆるされない



中学校の部で優秀賞に輝いた西明寺中学校の櫻田玲愛さん（3年）と仙北地区少年保護育成委員会の新山正雄副会長。

仙北地区少年保護育成委員会（荒木和子会長）が、市内各小・中学校を対象に募集していた「非行防止・健全育成標語」の入賞作品が、応募総数483点の中から決定しました。入賞者並びに作品は次のとおりです。（敬称略）

栄光 ～輝くとき

第17回秋田県小学生インドアソフトテニス選手権大会

市内の小学生が活躍



優勝した高橋優斗さん（右・角館小6年）と佐藤大篤さん（左・大曲小6年）ペア。



高倉美優さん（右・神代小6年）と下村まこさん（左・秋田市立桜小6年）ペア。

1月19日、第17回秋田県小学生インドアソフトテニス選手権大会が、ニプロハチ公ドーム（大館市）で開催され出場した仙北市内の小学生が活躍しました。

男子1部に出場した大曲ジュニアの高橋・佐藤ペアが優勝。女子1部では、仙北市ジュニアの高倉、秋田市ジュニアの下村ペアが第3位に入賞しました。また、第2部に出場した仙北市ジュニアの加藤・進藤ペアが第3位に入りました。

この大会は、令和元年度東北小学生インドアソフトテニス大会秋田県予選会も兼ねており、2月1日仙台市で行われた東北大会に高橋・佐藤ペアと高倉・下村ペアが出場しました。

仙北市の魅力を一冊に！
大曲支援学校せんぼく校が観光ガイドブックを作成
1月29日、大曲支援学校せんぼく校の高等部3年生の4人が仙北市の観光ガイドブックを作成し、仙北市へ冊子とデータを寄贈いただきました。また、四季によってデザインの違う手作りの封筒もいただきました。
このガイドブックは、大曲支援学校せんぼく校が仙北市の観光に特化した独自の教科「観光科」の授業の中で制作されました。4月からとりかかり、企画や取材、撮影、レイアウトなどが中心となっていて行っています。ターゲットは20～30代で仙北市にまだ来たことのない方。季節感や色、レイアウトにこだわって作っています。
中を見てもみると、季節ごとに観光スポットや食べ物、特産品などを生徒さんたちが自ら足を運び、体験しながら紹介しています。
制作した感想を聞くと鈴木さんは「ひとつの記事ごとにタイ



観光ガイドブックを作成した大曲支援学校せんぼく校高等部3年生の4人。右から猪本渉さん、田口優花さん、大塚瑠那さん、鈴木健祐さん。

トルをつけたり、配置決めが大変だった、大塚さんは「知らなかったこともあって、自分のまちがとても素敵なまちだと思った」と、話してくれました。



大曲支援学校せんぼく校の生徒が作った観光ガイドブックと封筒。仙北市の魅力が詰まっています。



皆さんの授業の集大成！
仙北市の魅力がたっぷり詰まった観光ガイドブックは仙北市ホームページから！！

仙北市地域おこし協力隊

小林裕高さんに感謝状

門脇市長（左）から感謝状を受け取る小林さん（右）。



1月31日、仙北市地域おこし協力隊として障がいのある人や年齢、国籍に関わりなく安心して旅を楽しんでもらうユニバーサルツーリズムなどの観光振興を主として平成29年2月1日から活動をしてきた小林裕高さんが3年間の任期を終え、門脇市長から感謝状が贈呈されました。

3年間を振り返って小林さんは「3年間はあっという間だった。1年目は、活動に対する知識やスキルがゼロの状態からの始まりだったので、何から手をつけてよいかわからず、模索する日々が続いた。でも2年目以降は、周りの方々のご協力をいただきながら、自分のフィルターを通した自由な活動ができた。活動を通して色々な方々と関わることができ、皆さんには本当によくしていただいて感謝している」と話しました。



新しい監査委員を紹介します

欠員となっていた仙北市監査委員に高橋祐策さん（角館町白岩）を選任する議案が、第1回市議会臨時会で同意されました。

高橋さんの任期は、令和2年2月1日から令和6年1月31日までの4年間となります。

仙北市
地域おこし
協力隊コラム

寄合いカフェが、 噂のドローンカフェに

播磨 靖之



寄合いカフェでマイクロドローンレース後に。

皆さん、こんにちは。普段、仕事をしているのが低いテーブルなので、長時間座っていると膝が悲鳴をあげます。もう若くはないんだなと感じている協力隊の播磨です。

今年の1月11日、松木内字松葉にある寄合いカフェ（NPO法人かじか瀬）をお借りし、ドローンカフェとして限定営業しました。この場所は元々商店で、その後地元の皆さんが集まるような場所になればとのこと、NPO法人かじか瀬として開設され、普段はあみかゴ教室などのイベントが定期的に開催されているそうです。現在は、地域おこし協力隊の折笠靖子さんが地域の皆さんの居場所になればと考え、火曜日、水曜日、そして第2・4土曜日限定で寄合いカフェとして営業しています。

今回、この場所でドローンカフェとして営業することにしたのは、地域の皆さんにドローンを実際にふれ、興味を持っていただきたかったからです。また、この地域に1人でも多くの方が訪れ、ドローンを通じてこの地域の魅力にふれてもらいたい。そんな気持ちでドローンカフェとして営業させていただきました。

きました。当日は10人程のお客さまが、県外含め市内外からドローンカフェにお越しいただき、操縦体験や、ドローンQ&A、マイクロドローンレースなどを行い、皆さんと楽しく交流させていただきました。

ドローンは飛ばすためだけに利用するのではなく、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）などの学習要素を備えていると考えています。ドローンのみならず、多くの産業はテクノロジが大きくけん引しています。今後定期的に開催し、この地域の将来を担う子どもたちや、多くの皆さんにドローンやプログラミングなど、最新のテクノロジに興味を持つきっかけを提供する場所になれば嬉しいなと思います。



みんなで記念撮影。

市長の

まちづくり

No.166

日記

『漏水の新聞報道で』

仙北市長 門脇 光浩

2月4日開催の第2回仙北市水道運営審議会で、秋田魁新聞「供給量の半分無駄〜仙北市、漏水深刻さ増す」の報道（2月3日朝刊）に質問が集中しました。市民の皆さんに不安感が高まっています。本当に申し訳ありません。しかし…。

老朽管の布設替えなど、漏水対策の強化を痛感しています。水道未普及地域の解消を進めて給水戸数は増加しています。そのほか、例えば27年度は老朽管の布設替えで2千万円超の事業を、28年も同規模の布設替えを行った。特に塩化ビニル製の配水管は破損しやすい。

Q・今後の漏水対策をどう進めるのか。
A・漏水を放置することはできない。これまで対応してきたが、年々その重要性が増していると感じている。令和2年度に市水道事業基本計画を見直しする。未普及地域の解消も継続するが、漏水対策に着目した事業導入を進める。

同審議会での質問は次の内容に集約されます。私たちの答弁もあわせてお伝えします。

Q・新聞報道にあつたように給水の半分以上が本当に無駄になっているのか。

A・平成28年度から上水道と簡易水道を統合した。給水人口が少ない地域は水の動きが緩慢なため、給水家屋が多い地区とは別の対応が必要となっている。凍結

防止（12か所）や塩素の揮発防止（6か所）で放水を行っている。このほかにも断水給水、泥吐作業、メーター不感などがある。市ではすべての水の使い方を調査回答の対象とした。これらは無駄ではない。

Q・漏水した際の補修財源の確保は困難な状況か。
A・もちろん補修は随時行っている。ここ2年は毎年1千万円近い修繕になっている。そのほか、例えば27年度は老朽管の布設替えで2千万円超の事業を、28年も同規模の布設替えを行った。特に塩化ビニル製の配水管は破損しやすい。

Q・今後の漏水対策をどう進めるのか。
A・漏水を放置することはできない。これまで対応してきたが、年々その重要性が増していると感じている。令和2年度に市水道事業基本計画を見直しする。未普及地域の解消も継続するが、漏水対策に着目した事業導入を進める。

※

雪が降らない冬の後に、水不足の春が来るのではないかと、そんな心配が心の中で膨らみます。新聞報道を安定的な水道供給の機会にしようと思います。

かくのだてフィルムコミッション

ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション

（仙北市観光課内） ☎ 43-3352

<https://kakunodate-fc.jp/>

1月23日、東京で開催されたジャパン・フィルムコミッション（以下JFC）主催の全国ロケ地フェアに参加しました。例年は積雪の状況により、足元をどうしようか迷うところですが、今年は全く雪が積もっていないため、迷うことなくビジネスシューズを履いて東京に向かいました。

JFC全国ロケ地フェアは、フィルムコミッション（以下FIC）と映像制作関係者のマッチングの機会です。会場では地方ブロックごとに分かれ、かくのだてFICは東北ブロックとして対応しました。会場の東京劇場ビルは、映画会社の松竹の本社が入っている建物です。松竹の映画劇場やVIPO（映像産業振興機構）などの映像関係の団体・組織も同じ建物内にあります。ここでの開催は、3年目になりますが、立地もよく、たくさんの方の映像制作者が集まっていた

きました。よってFICと一緒にブリスでしたが、自分たちの活動エリアだけではなく、秋田県全域で提案するよう心がけました。映像制作者からの反応もよく、撮影を検討したいとの声もいただきました。これまで、かくのだてFIC単独での提案では難しい面も感じていましたが、秋田県全域でアピールすることが効果的であると感じました。実際に撮影に結びつくようフォローしていきたいと思っています。

全国ロケ地フェア終了後には、全国FICの意見交換会が行われました。それぞれのFICが地域の特産品を持ち寄って、おらが故郷自慢のようで大変楽しむことができました。映像制作者も参加し、有意義に情報交換することができました。

（会長 坂本 洋）



来場者で賑わうロケ地フェア。